

2024 年度「しれとこ 100 平方メートル運動」の 生物相復元事業に関わるイワウベツ川における取り組みについて (斜里町・公益財団法人知床財団・知床博物館)

しれとこ 100 平方メートル運動の生物相復元事業では、1997 年からイワウベツ川において、「1.サクラマスの復元」および「2.カラフトマス・シロザケの自然産卵促進」、「3.河川環境の改善」を目指す取り組みを行っており、2024 年度は 27 年目にあたる。上記 3 つの取り組みの実施結果について報告する。



図 1. しれとこ 100 平方メートル運動の生物相復元事業作業地

1 サクラマスの復元

- 8 月 29 日および 9 月 7 日、サクラマスの遡上状況調査を実施した。調査はイワウベツ川本流（赤イ川分岐～ピリカベツ川合流付近）・ピリカベツ川・赤イ川（白イ川を含む）を踏査し、目視と水中動画撮影によってサクラマス親魚を確認する手法を用いた。結果は、全ての調査河川においてサクラマス親魚の確認はなかった（図 2、昨年 9 尾）。
- 上記の結果について、今年も 2021 年の夏季に産卵した個体の遡上年であり、2021 年 11 月に発生した記録的な大雨により産卵場所の大きな攪乱があったことが影響した可能性が考えられる



ピリカベツ川でのサクラマス遡上調査の様子（2024 年 8 月 29 日）。

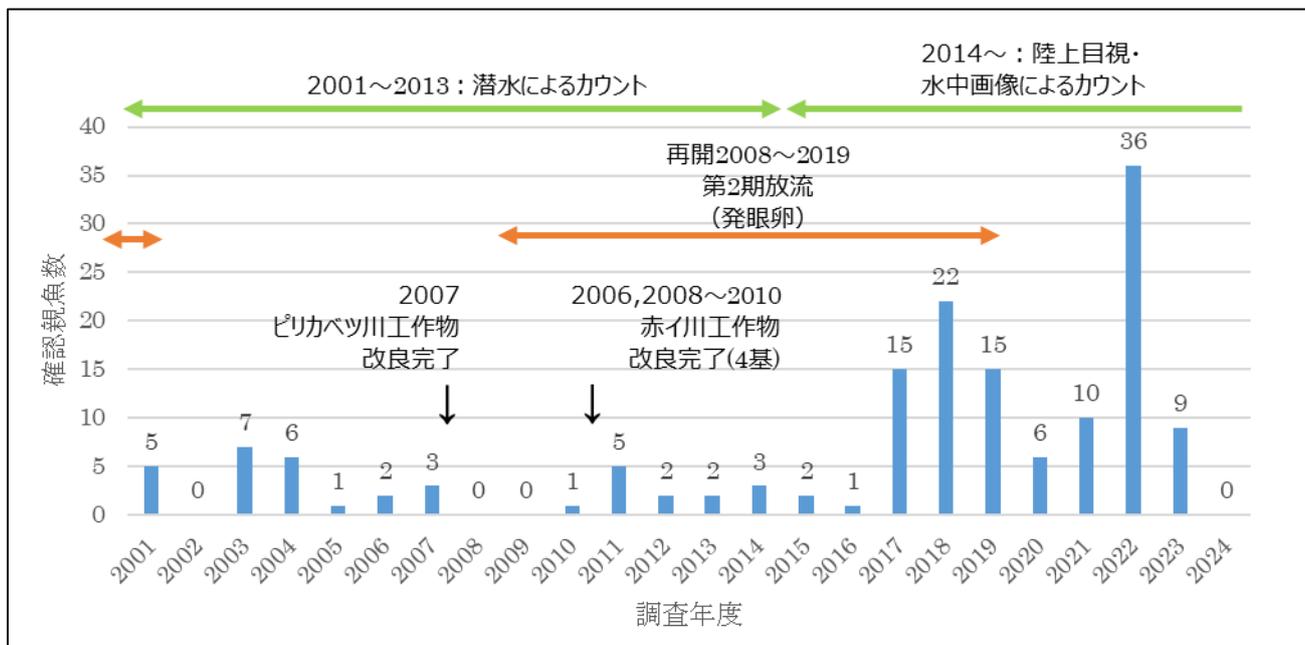
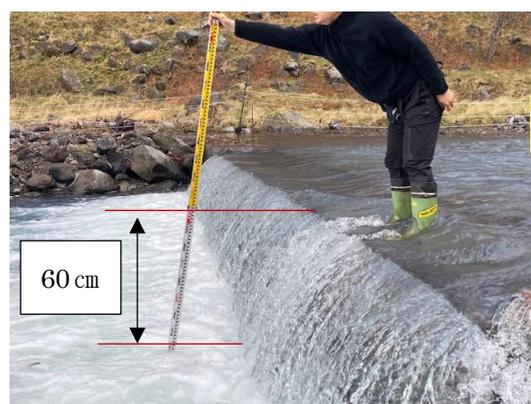


図2. イワウベツ川におけるサクラマス親魚遡上数

2 カラフトマス・シロザケの遡上促進

- イワウベツ川におけるカラフトマスおよびシロザケの遡上状況について、岩尾別ふ化場によるウライ上部への放流状況を聞き取り、今年度は放流を行っていないとの回答であった。2021年11月以降、ウライ下の河床が浅くなっていることから（落差60cm、昨年同期と変わらず）、増水時にサケマスが自然遡上していたとのことであった。なお、ウライ下流側の河床を掘り下げる工事は未定とのことであった。



岩尾別ふ化場ウライ（2024年11月3日）。

3 イワウベツ川における河川環境の改善

- 昨冬から現在まで、イワウベツ川においては大規模な増水はなく、本流および各支流において特筆すべき岩石の移動や川幅の拡幅等の河川形状の変化は認められていない。
- イワウベツ川本流にあるNo.7 治山ダム（図1：①）の改良工事が完了し、上流のNo.3ダム（図1：②）の改良工事が着工され2026年度の完了を目途にスリット化を計画。



イワウベツ川 No3 治山ダムの工事の様子（2024年11月5日）。

- 盤ノ川簡易魚道については（図1：③）、2022年9月の修繕以降の大きな破損は確認されていない。ただし、魚道側面からの漏水が悪化し、7月18日に魚道下部の水流が途絶えた状況が確認された。9月21日に魚道の漏水箇所を補修、水流は回復した。魚道の断水期間は少なくとも65日間であった。



水流回復後の盤ノ川簡易魚道（2024年9月21日）。

オショロコマ生息状況調査（イワウベツ川・幌別川）

- 5月21日および6月11～12日、11月5～6日に、イワウベツ川流域における電気ショッカーを用いた魚類調査を実施した（知床博物館、東京農業大学オホーツク校との共同調査）。イワウベツ川の No.3 治山ダムより上流側ではオショロコマの捕獲はなかった。



イワウベツ川での魚類調査の様子（2023年5月21日）。

- 11月29日に、幌別川における電気ショッカーを用いた魚類調査を実施した（知床博物館との共同調査）。結果は2023年の前回調査と大きく変わらない生息密度であった。その他の特記事項として、ニジマス1尾の捕獲があった。



幌別川で捕獲されたニジマス（2023年11月29日）。

イワウベツ川におけるオシヨロコマ生息状況調査（知床博物館・東京農業大学・知床財団）

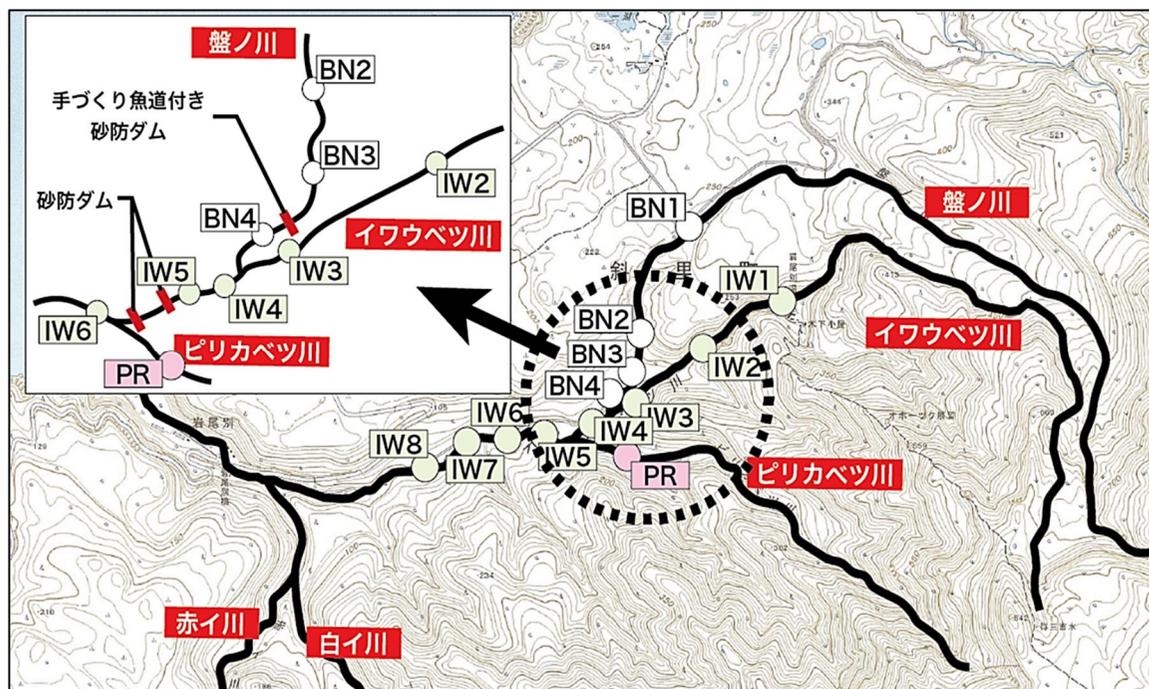
目的：①盤ノ川簡易魚道の効果検証

②イワウベツ川流域の現状把握（魚類の生息密度、サイズ組成など）

方法：電気ショッカーを用いた採捕により、各地点1～4パスでの除去法で個体数・密度を推定

対象種：オシヨロコマ、ヤマメ（遡河性サクラマス）

調査地域：イワウベツ川流域の13地点（イワウベツ川本流7地点、盤ノ川4地点、ピリカベツ川1地点）



調査期間：

- ① 2022年10月11日・26日（秋季）
- ② 2023年6月12日～13日（春季）
- ③ 2023年10月23日～24日（秋季）
- ④ 2024年6月11日～13日（春季）
- ⑤ 2024年11月5日～6日（秋季）

調査結果：推定生息数および生息密度（2023年6月～2024年11月）

